2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科		科 E		₹ :	分	その他	授業の方法		講義
科目名	数学演習		必修/	選択	(の	別	選択	授業時数(単位数)	30	(2) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及	なび曜	星時	狠	前期	教室名		301
担当教員		実務経験と その関連資格								

《授業科目における学習内容》

高校数学Iレベルを出発点にして大学編入試験等に必要な数学の基礎を身につける。

《成績評価の方法と基準》

中間試験と期末試験にて記述試験を行う。その平均点評価:70%。 出席評価:20%。 宿題への取り組みなどによる平常評価:10%。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

《授業外における学習方法》

《履修に当たっての留意点》

			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	ベクトルについて一般的な理念を説明できる。	・必要に応じてプリ ントを配布	授業範囲を復習しておくこと	
	我形式	各コマに おける 授業予定	ベクトルの向き,大きさについて			
第	講	授業を 通じての 到達目標	ベクトルの和,差について計算できる	ン亜に仕にてプロ	授業範囲を復習しておく こと	
2	義形式	各コマに おける 授業予定	有効線分、ベクトルの和、差	必要に応してブリントを配布		
第 3 回	講	授業を 通じての 到達目標	ベクトルの実数倍について計算できる	ソモによい~~ 31	授業範囲を復習しておく こと	
	義形式	各コマに おける 授業予定	実数倍、演算	必要に応じてフリ ントを配布		
第	講	授業を 適はての 到達目標 ついて、成分表示することができる。		ソ西に古いてかり	極要が囲む佐羽」で かけ	
4	義形式	各コマに おける 授業予定	ベクトルの大きさ、和、差、実数倍、演算	必要に応してフリントを配布	授業範囲を復習しておくこと	
第 5 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標		War is the second		
		各コマに おける 授業予定	内積の求め方、計算の利用	必要に応じてフリ ントを配布	授業範囲を復習しておくこと	

	業の 法			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	数列の概念について理解し説明できる	一.必要に広じてプロ	授業範囲を復習しておく こと	
6 □	我形式	各コマに おける 授業予定	数列の定義, 表記について	必要に応じてフリントを配布		
第 7 回	講義	授業を 通じての 到達目標	等差数列について計算できる	-	授業範囲を復習しておく こと	
	我形式	各コマに おける 授業予定	公差、一般項、和の公式	シトを配布		
第 8 回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	等比数列について計算できる		授業範囲を復習しておく こと	
		各コマに おける 授業予定	公比、一般項、和の公式	ントを配布		
第 9 回	講義	授業を 通じての 到達目標	和の記号について計算できる		授業範囲を復習しておく	
	我形式	各コマに おける 授業予定	記号Σの意味、和の計算	シトを配布	技楽	
第	講義	授業を 通じての 到達目標	階差数列について計算できる	- 必要に広じてプロ	授業範囲を復習しておく	
10回	義 形 式	各コマに おける 授業予定	数列変換、一般項	ントを配布	技楽範囲を復省しておく こと	
弗 11 回	講義	授業を 通じての 到達目標	漸化式について理解し計算できる	- 八亜に古いて守田	授業範囲を復習しておく こと	
	我形式	各コマに おける 授業予定	漸化式を用いた数列の定義	シトを配布		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	行列の概念について、理解し説明できる	- 必要に広じてプロ	授業範囲を復習しておく こと	
12	形式	各コマに おける 授業予定	行列、連立方程式	ントを配布		
第	講義	授業を 通じての 到達目標	行列の演算	- 必要に広じてプロ	授業範囲を復習しておく	
13	莪形式	各コマに おける 授業予定	和、差	必要に応じてフリントを配布	授業範囲を復習しておくこと	
第	講	授業を 通じての 到達目標	行列の演算	公亜にはいてず 11	授業範囲を復習しておく	
14	義形式	各コマに おける 授業予定	積	一必要に応じてフリントを配布	技楽和団を復音しておく こと	
第	講義形式	授業を 通じての 到達目標	前回までの内容の理解を確実にし、計算することができる。	- 必要に応じてプリ ントを配布	極業築田も復知! ぞわ!	
15 回		各コマにおける授業予定	これまでの総復習		反来軋曲を復省しておく こと	